

6.4 教育成果のあり方

進捗状況報告

1. 前期課程は、成果測定のためのより客観的な指標の導入を検討する。2005年度の自己点検・評価報告書においては、本研究科設置の目的であるキリスト教伝道者育成がどの程度実現されているかを見るために、キリスト教関連活動に従事する者（牧師を含む）の統計を掲げた。数値が直接、教育目標達成の指標となるとは考えにくい分野ではあるが、一定数のキリスト教関連活動に従事する者が輩出されつづけるよう、この統計を活用する方法を検討する必要がある。
2. 後期課程は、継続的に学位取得へ向けての指導を徹底すると同時に、それに至るまでの研究活動（研究発表や論文執筆）における客観的な評価指標を導入するべく、検討中の学位取得までのプロセスの中に望ましい研究発表や論文執筆の数を盛り込む予定である。
3. リカレントの場としての後期課程在学学生に対する成果の測定法について検討をはじめている。

学内第三者評価

教育成果に関する指標の一つとして、教会・学校・病院・社会福祉施設への就職をあげることは妥当である。

また、国際貢献の立場からの視点も入れることが望ましい。

後期課程の学生の成果測定に在学中の学会発表や論文発表を考慮することは他分野で標準的に行われていることである。後期課程修了者数を増やすためにも必要な措置として評価する。